

緩

和

ケ

ア

便

り

平成30年5月10日(木)に平鹿総合病院 緩和ケアチーム 平成29年度活動報告が行われました。41人の参加がありました。その概要と報告会の様子をご報告致します。

【プログラム】 17:30～18:30

- (1)平成29年度 緩和ケアチーム活動概要報告
(緩和ケアチーム介入依頼件数、在宅訪問診療件数、緩和ケア外来件数、がんリハ依頼件数、栄養科依頼件数など)
- 2)苦痛のスクリーニング実施状況報告
- 3)緩和ケア研修会新指針について
- 4)その他の研修会のお知らせ



平成29年度 緩和ケアチーム活動報告

- ・ 介入患者が97人（入院患者）となり、平成28年度と比較し11人増加した。診療科としては外科46人、呼吸器科9人、産婦人科14人、消化器科11人、血液内科4人、耳鼻科6人、乳腺2人、循環器科2人、泌尿器科3人であった。
- ・ 医師・薬剤師・看護師のみに限らず、理学療法士・作業療法士・栄養士など、多職種者でのアプローチによって患者の苦痛に対応できた。院外の往診医と連携した在宅移行な、病院内にとどまらない活動ができた。

緩和ケア外来

平成28年1月より緩和ケア外来を開設した。29年度は23人の患者依頼があった。依頼があった診療科は外科8人、婦人科4人、耳鼻科4人、消化器科3人、呼吸器科2人であった。受診時の主症状を抽出したところ、身体症状の他にも心理社会スピリチュアルなどの問題を抱えている患者・家族が多かった。多面的な苦痛に対応できる専門外来としてご利用していただきたい。30年度の診療は金曜日、10:00～12:00 完全予約制。

緩和ケアチーム訪問診療

平成28年度から緩和ケアチーム（医師・緩和ケア認定看護師・薬剤師）と訪問看護師、保険薬局の薬剤師など多職種協働で往診を開始。29年度は6事例に往診を行った。患者・家族の療養の場の選択肢拡大に繋がった。

苦痛のスクリーニング

- ・ 緩和ケア委員会メンバー、及び病棟・外来スタッフの協力のお陰で「苦痛のスクリーニング」が、がん患者さんを受け持つ全ての病棟で実施され、定着してきている。
- ・ 総件数614件（入院患者：299件 外来患者：315件）実施件数は前年度の2.28倍に増加した。
- ・ スクリーニング陽性患者の多くは、身体と心のつらさを抱えていた。心のつらさに対しては、精神科の常勤医や臨床心理士のいない当院においては、緩和ケアチームや病棟スタッフが試行錯誤しながら関わっている現状にある。

がんリハ依頼件数 栄養科依頼件数

リハビリテーション科

- ・ リハビリテーション全処方件数：1530件のうちがんリハは108件（全体の7%）
- ・ がんリハ導入後は機能回復だけでなく、緩和期やお看取りの時期まで深く関わる事ができるようになった。

栄養科

- ・ がん患者への栄養科介入件数105件（入院）,外来4件。病名別にみた介入件数は男性では胃癌が最も多く31.7%、女性では卵巣癌が最も多く、24.5%であった。管理栄養士は、必要エネルギーの確保が困難な患者の献立検討や栄養補助食品の追加、緩和ケアに携わる他職種との連携や患者家族のサポートなど、個々の細やかな対応を行っている。

緩和ケア研修会のお知らせ

- ・ 今年の平鹿総合病院緩和ケア研修会は 2018年9月8日(土)を予定しています。
- ・ 今年度からE-learningを取り入れ1日の集合研修になります。参加を希望される方は、PEACE PROJECTのホームページからE-learningに進み受講して下さい。研修会の約1カ月を目処にE-learningを終了する必要があります。不明な点は緩和ケアチームまでご連絡下さい。